

中京女子大学

# 同窓会ニュース

1986・4・1 No. 7

■発行 中京女子大学同窓会

〒474 愛知県大府市横根町名高山55

TEL.0562-46-1291

## 第七回 同窓会総会日程決定

第七回中京女子大学同窓会総会日程が決定致しましたのでお知らせ致します。昭和61年10月26日（日曜日）に行なう予定です。春に総会をと計画を進めてきましたが、新体育館完成もあり総会後に皆さんに、ご覧いただけましたらと秋に致しました。また、総会后、同期会などを企画されてみてはいかがでしょうか。

## 沖縄支部会準備委員会発足

沖縄の同窓生の皆さん！ 支部会を作り、沖縄同窓生の親睦をはかり、母校とのパイプを密にし、情報交換をしていきたいと考えておりますので皆様のご理解とご協力をお願い致します。多くの同窓生の方々に声をかけ、大きく発展していきたいと願っております。なお、第7回同窓会総会におきまして承認されますと、支部会としてますます活躍していきたいと願っております。



連絡先

〒 905-05

沖縄県国頭郡伊江村字東上

平安山陸子（旧玉城）昭和57年度

家政学部児童学科卒

TEL 098049-2066

### — 同窓会名簿についてのお知らせ —

昨年中京女子大学同窓会名簿を発行致しました。名簿希望者は下記の口座に振り込みいただきましたら、名簿をお届けすることになっておりますので、どうぞお早く申し込み下さい。

口座番号 名古屋 9-6974

加入者名 中京女子大学同窓会

名簿代金 1,500 円

## 新 会 員 を 迎 え て

昭和60年度新会員数

|                   |     |
|-------------------|-----|
| 体 育 学 部・体 育 学 科   | 119 |
| 家 政 学 部・児 童 学 科   | 77  |
| ” ・食 品・栄 養 学 科    | 28  |
| 短 期 大 学 部・体 育 学 科 | 117 |
| ” ・家 政 学 科        | 80  |
| 計                 | 421 |

（昭和61年3月21日付）

## 新会員の抱負

### 未来に向かって、私は今!

名古屋市教師

二村 仁美

(昭和60年度  
体育学部体育学科卒)



大学の卒業式も終え、今、4年間の月日が走馬燈のように横切り懐しさでいっぱいになります。

初めて大学の門をくぐった時、緊張と同時に大学生なった誇りみたいなものを感じました。そして、私にとって初めてのクラブ遠征は二重の感動になったのです。その年、チームは大学女子ソフトボール選手権大会で初優勝したのです。その時の感動を忘れられずもう一度、もう一度と思っているうちに選手としては幕を閉じてしまいました。最後の試合で敗れた悔し涙。そして、同時に終わったんだという安堵感。次から次へと涙があふれたあの日を忘れる事がないでしょう。クラブ活動を通して人と人との信頼関係の大切さを教えられ、素晴らしい友に出逢えた事は何もにもかえがたいことであったように思います。これからは指導者として多くの出来事を自分なりの感動として味わう事ができるように頑張っていきたいと思います。

大学4年間において体育指導者としてどうあるべきかを諸先生から多く学びました。また、教育実習に参加して今まで学生側の立場でだけしか経験のなかった私に、教師の立場から見て、自分がいかに未熟であったかを生徒を通して痛感することができました。多くの生徒達を指導する場合、全員に理解させる事は非常に困難な事です。でも、真剣に接すれば生徒達は自然に心を開いてくれるのでは

ないかと思います。そのためには、常に自分が生徒達と接する時に真剣に相手を思いやる気持ちを持ちつづければならないと思います。体育を通じて人と人との心がふれ合う事のできるそんな授業を創れる教師になりたいと思います。そのためには、まだまだ多くの事を勉強しなければなりません。

教育実習を通して得た事を今後の指導に役立て、自分らしさを失わずに頑張っていきたいと思います。最後になりましたが、母校の発展をお祈り致します。

岐阜県小学校教師

高谷 重子

(昭和60年度  
体育学部体育学科卒)



今、卒業を終え5年間の学生生活(短体から偏入)の思い出よりも、4月からの新しい社会での生活への期待と不安でいっぱいです。

私は、教師志望でありましたけど、決して採用試験をパスできるとは思っていませんでした。しかし、今年度は、例年より採用者数も多かったことと、ゼミでの“勉強会”の成果も実り、パスすることができました。

しかし、一番の要因としては、教育実習での体験です。教育実習は、2週間という短い期間ではありましたが、未熟な力で精一杯授業を行い、生徒と先生の対話ができ、先生の生活の一部をのぞくことができ、より強く先生になりたいと思いました。それと同時に、生徒や恩師達の私にかけてくれる期待をいっぱいに感じる事ができたからです。そこで、期待に答えようと、短い期間ではありましたが密度濃い試験勉強ができました。

でも、9月に入り、いざ一次試験パスの通知が来た時は、うれしいよりも、知識のない自分を思うとどうしようという不安が先走るしまつです。

最近は何事にも情熱をもって、生徒達の立

場に立って考えてやる心を大切にしていきたいと思っております。配属が小学校となりましたので、これからは、小学校の勉強と、少しでも自信がつくように、もっともっというろいろなことを学んでいかなければならないと思っています。同窓生のみなさん、諸先生方これからもよろしくお祈り致します。

最後に、母校の発展をお祈り致します。

#### 静岡県小学校教師

### 深部 貴代

(昭和60年度  
家政学部児童学科卒)



はじめて親の元を離れ、不安と希望を胸に大学に入学して、あっという間に4年が過ぎました。卒業しても、実のところいまだにピンとこないのですが、教師になることを目指して大学に入った頃は、その専門の勉強をすればするほど深さ、難しさを知り、その責任の重さなどに自信をなくしたことも度々ありました。しかし小学校実習を体験して、やはり自分の進む道は小学校の教師になることであると改めて思いました。4年間の大学生活で大げさではありますが、自身にとって自分をみつめる良い機会でもあったと思います。また、4年間の合唱部のクラブ活動は、先輩・後輩との出会いで学んだ思い出は生涯私の心に焼きついて忘れることはできません。クラブ活動の目標である定期演奏会の成功に向け、日夜練習や準備、時には授業を抜け出し打合せに行ったり、早朝からピアノの練習と言う厳しい練習に、何度もやめようかと思いましたが、この苦しさを乗り越えて出来あがったステージは忘れることのできないものでした。4年間合唱部を続けたことは、本当によかったと思っています。

このことを肝に命じて、学生時代とかわり社会では増々責任を問われる立場であり、常に前向きな態度で、社会に立ち向って行く覚

悟です。私は幸いにも教員採用試験に合格することができましたが、これからは私にとって人生の試練であります。大学で多くのことを学んだ諸先生方に対しても恥かしくないよう努力を重ねたいと思います。そして子供達のふれ合いを大切に、また子供達にとって良き理解ある教師として努力してまいります。最後になりましたが、諸先輩方の御指導を重ねてお願い申し上げますと同時に母校の発展を期待しております。

### 広川 美和子

(昭和60年度  
家政学部児童学科卒)



大学生生活の4年間は、私にとって大変貴重な時間でした。入学する前に、「故郷を離れて、一人で生活してゆけるのだろうか」と不安でいっぱい悩んだりしましたが入学し、寮生活を始め皆が同じ気持ちで大学に来ていることがわかり、ひと安心したことを覚えています。

実際に生活し始めると、自分と友達だけの集団生活は楽しい反面、非常に厳しいということがわかってきました。自分というものが全く否定され、自分に失望し右も左もわからなくなったこともありました。その時から、社会の中の自分を見つけざるを得なくなり、ようやく自己を探し始めたことです。しかしこのように多くの困難もありましたが、逆に素晴らしい出来事も沢山得られたことです。沢山の友人に出会いそして、支えられいろいろなことを語り合うことによって、自分の世界が広がったということは、とても幸せなことだと思います。

また、大学では児童についてのみ学んでいたつもりが、いつのまにか、「人間」について学んでいたことに気づきました。自分の気持ちのなかに半ば、時間を無駄にし過ぎてい

たのではないかと感じていましたが、自分なりに何かを育ててきたという実感をあじわえたことも確かです。

4年間の大学生活を経た今、人間には目に見えないけれども大切にすべきものが沢山あり、それは倫理的なもののみならず、人間らしい優しさや心ではないかと思うようになりました。就職を控えて様々な不安が頭の中を過りますが、今まで学んできたことが、理想や夢だけで終わらぬように今後努力してゆきたいと思います。また、母校が増々発展されますようお祈りいたします。

静岡県公立中学校教師

上田 宏子

(昭和60年度 家政学部  
食品・栄養学科卒)



## 大学生活をふり返って

私が中京女子大学に胸躍らせて入学してから、はや4年の歳月が流れ、光陰矢の如しと言わずにはおれません。今、4年間をふり返ると、様々な思い出が頭の中を駆け抜けて行きます。1年の頃はなかなか環境に適應できず思い悩み、涙をこぼしたこともありました。2年では父を亡くし、途方に暮れたこともありました。でもそんな時、寮や卓球部、学科の友達や諸先生方の暖かい言葉に私は励まされ、勇気づけられました。本当に私は、人間の織り成すドラマの中で、泣いたり笑ったりして随分成長したと思います。

私は、食品・栄養学科に在籍し、学んだわけですが、この学科を専攻して良かったと思っています。何故なら、食とは私達人間にとって一生涯欠かすことができないもので、講義で学んだことが日常生活に直接的に役立つという最大の利点があったからです。さらに、食品・栄養学科の生徒数は他学科より少数ではありましたが、その分先生方は熱心に御指導下され、4年間の総まとめの卒業論文

でも自分なりに納得の行くものを完成させることができました。4年間の学業を通じて私は、学業とは毎日毎日の努力の積み重ねが大切だと痛感いたしました。また、努力は必ずいつかは実を結ぶと自信をも与えてくれました。学業以外にも、大学生活を通して良い社会勉強をすることができました。津々浦々から集まった人達の中で私自身自分を改めて見直し、視野を広げることもできましたし、何より人間関係の重要性を身に染みて感じました。

私は静岡県の公立中学校の家庭科の教師として勤めることになりましたが、今後は大学で学んだことをステップに、子供達に時には優しく、時には厳しく指導できるような教師になりたいと思います。また、女性としても思いやりと感謝の気持ちを持てる魅力ある女性になるため、自分を磨いて行きたいと思えます。

愛知県教師

加藤 文代

(昭和60年度  
短期大学部体育学科卒)



2年間の学生生活を振り返ってみると、クラブ活動に熱中したり、教員採用試験のために真剣に勉強に取り組んだ日々が懐かしく思い出されます。入学当時は、ただばく然と教師になりたいという目的しかもっていなかった私ですが、先生方や先輩方からいろいろ助言をして頂き教師像という自分なりのイメージをつかむことができたこの2年間で、自己を大きく成長させることができたと思います。

毎日朝7時に家を出て、夜は9時過ぎに帰宅するという忙しい日が続きましたが、このような日々の中で、私は多くの先生方から多くの事を学びました。実技の授業では、学習指導のポイントや、より安全な補助の仕方など、これからの私に役に立つことを数多く習得しました。また、海浜実習やスキー実習を

通して、集団行動の大切さとか友だちと互いに協力しあって、自己を高めていくということを学びました。

また、2週間という短い期間でしたが、教育実習生として実際に教える立場を経験してみても、教えるということの難かしさを改めて痛感しました。同じ体育の授業を行なうにしても、指導の仕方が異なるだけで、生徒がやる気を起こしたり、逆にやる気をなくしたりします。クラス全体がひとつにまとまり、生徒ひとりひとりが、体力の向上を図ることができるような授業にしていけることが、私のこれからの重要な課題のひとつだと思います。この中京女子大学で学んだ2年間という年月は、本当に短い期間でした。しかし、私はここで学んだことを基礎にして、生徒の立場になって物事を考えることができ、またどの生徒からも信頼されるような教師になれるように努力していこうと思っています。戸惑いも多く1日1日が勉強の日々ですが、日頃の忙しさで目の前のことだけにとらわれず、長い目で生徒を見守っていくことを忘れずにがんばっていこうと、決意を改たにしています。

最後になりましたが、同窓生の諸先輩今後ともよき指導をお願い致します。

都築紡績株式会社

河和学園教師

大平由美

(昭和60年度

短期大学部体育学科卒)



社会に飛び立つ前に……私は今

最後の学生生活が終わろうとしている今、この2年間を振り返ってみると、様々な出来事やたくさんの思い出がよみがえってきます。体育教師を目指し期待に胸をおどらせて入学し、専門的知識や実技を数多く学び取ることができました。その他に得たものは、たくさんのすばらしい仲間です。辛いとき、哀しい

時、共に励まし助け合いながらのりこえていくことができました。よき友を得て、学生生活をより一層充実したものにすることができました。

中でも教育実習は、私にとって貴重な経験となりました。実習を通して人に教える事の難しさや厳しさ、やり遂げた時の喜びや楽しさなどを未熟ながらも学び取ることができました。実習を終え指導者としての自覚を身につけ、さらに教師になるという決意を固めることができました。いろいろな人との出逢い、その中で得たものは、これからの私にとってプラスになることと思います。

のんびりした今の学生生活から社会に出ると、たくさんの困難にぶつかると思いますが、それに背を向けることなく、その時々を大切に積極的に人生を歩いて行きたいと思っています。

最後に、母校の御発展を心からお祈り致します。

大和銀行

安田由比

(昭和60年度

短期大学部家政学科卒)



短大・家政学科に学んで

——女性の自立とは——

この大学に入って様々なことを学んだように思いますが、私は2年間ゼミで「女性の自立」について取り組んできたなかで得たものが大きいと思います。2年では結婚などの婦人問題や老後のあり方といった社会問題のアンケート調査をして、違った世代の人や男性の意見を聞くことができました。

女性の可能性が広がり、結婚後も働き続ける女性も増えてきていますが、男性の場合、妻には主婦業に専念してほしいという人がまだまだ多いということが印象に残っています。また30代では、家事・育児に忙しいといった

日常生活をみることができ、いかに主婦業が大変であるかわかったように思います。女性の自立と言われますが、仕事を継続して社会で貢献していくことも確かに自立です。しかし、主婦業に専念しすばらしい家庭を築いていくなかで、社会的判断力を持つことも自立した女性の一つのあり方であることを知りました。就職・結婚・老後など、私たちはこの先必ず直面する問題を考えることで、改めて今後の自分の人生を見直すきっかけになったと思います。

ゼミでの討論では他の人の人生観・結婚観など聞いて、人それぞれの考え方を知ることができ、その人の個性や人間性を発見できました。それらは私自身に様々な影響を与え、プラスになる面も多かったと思います。また、こうしたなかで、たくさんのすばらしい友人も得ることができました。

4月から社会人となるわけですが、学生時代の甘えを捨て社会人としての自覚をもち頑張っていくつもりです。そして自分の仕事には責任をもって取り組み、女性の特性を生かし、周りの人には細かい気くばりができるような女性でありたいと考えています。

中部電力株式会社

新美和子

(昭和60年度

短期大学部家政学科卒)



短大・家政学部に学んで

—— やりがいの持てる仕事を ——

「月日の経つのは早いもので……。」これは卒業を目前に控えた学生たちが必ず使う表現です。しかし、この月並な表現ほど学生の心境を的確にとらえたものはないと思います。現在の私の心境もまさにこの通りなのです。

高校まで共学であったため、女子大に新鮮な期待を抱き入学したのが2年前のことです。

「女性の自立」というテーマに基づいたゼミ討論では、女性ばかりということもあり変な気がねもいらず、のびのびと発言することができ、また、被服や食物については理論と実技の両面から学ぶことができました。これらの家政学科で学んだことにより女性としての自覚が一層深まったようです。そして、最大の喜びはヨーロッパ研修旅行を機に、何でも話し合える友だちができたことです。わずかに15日間でこれほど友情が深まったことは驚くばかりですが、この友情のおかげで短大生活の後半を有意義に送ることができました。さらに、この2年間で色々な資格を取得することができ、加えて、教育実習において直接、子どもたちと関わる中で“教える者”の立場で物事を考えることができました。

短大生活は私にとって学び多き時でした。4月からは電力会社に勤務することになり、現在は一日も早く社会人・企業人としての自覚が持てるように勉強中です。“男女雇用均等法”が改正され女性の職場での立場は以前に比べ、はるかに優位となりました。しかし、それだけに“女性だから”という甘えは許されなくなったのです。“やりがい”という言葉が流行しましたが、どんな職業であろうと、自分で努力していくことが大切で、同時に甘えは仕事からの逃避と考えます。従って、逃げていたのでは“やりがい”を持つことはできないのです。私は大学生活における色々の経験を十分に活用して、会社という集団の中から新たな事柄を学びとりたいと思っています。





## ご活躍されている同窓生 社会人として私は今！

静岡県富士見高校勤務

西山幸子

(昭和30年度  
短期大学部体育学科卒)



### —— 韓国文教部長官賞を受賞して ——

皆様こんにちは、私は昭和31年3月に体育科を卒業した西山幸子です。(旧姓大津)

卒業後30年が経過し、自己反省を兼ねて、足跡を記す事にしました。

卒業後、静岡県内に勤務し、現在は富士見高校に在職中です。結婚後は毎日職場と家庭の雑務に追われ、勉強も満足に出来ずに、何年か過ぎ去ってしまいました。そこで、末の娘が幼稚園に入園したのを機会に、昭和45年9月から昭和46年9月まで、静岡大学体育科の聴講生として籍を置き、週3日通学しあとの3日は学校に勤務しました。覚悟はしていましたが、教師・学生・主婦の三役は、無器用な私には厳しく、至難の業でした。優秀な学生の中での私は紛れもなく、自他共に認める劣等生でした。その時、私自身の貴重な体験を通して得た事は何かと言うと、能力や学力の劣る者が、どんな心境で学んでいるのかという事でした。それが、のちの体育指導、生徒指導、クラス管理に役立つ事は言うまでもありません。また教授の指導内容、指導方法等、豊富な知識と緻密な研究には、ただ感服するのみでした。それに比べ教師とは名ばかりの私は、日頃の不勉強を大変恥ずかしく思うばかりでした。

それから、昭和50年8月に訪ソの機会を得て、14日の研修に参加いたしました。体育施設の視察、体育指導者との交歓会、相互の歌

と踊りの交流等々この施設も完備され、選手養成の一貫した指導体制。どれをとっても、規模の大きさは日本とは比較にはなりませんでした。

また、昭和53年6月には、中華民国を訪問しました。その際、文部大臣、オリンピック委員長、将軍閣下ご歴々の方々ご臨席の場に、私が同席出来ましたことは、大変光栄に思うと共に、末席の私に、優しくお声を掛けて下さったその感激は、生涯忘れる事は出来ませんでした。

次に、ソウルオリンピックが決定しましたので、50の手習いで、韓国語の勉強を始めました。それで会話の実習を兼ねて、3回訪韓し、その都度教育関係者と交流を持ち、親交の輪を広める努力もしました。皆様の勤勉家で、教育には大変熱心な方々ばかりであるのには驚きました。ところが思いもかけず、昭和59年12月「韓国文教部長官賞」を受賞しました。この賞は、国外の教育者で永年に亘り、韓国の為に貢献した人に、その功績を称えるために毎年、1人か2人、文部大臣が贈る賞だと伺いました。この榮譽ある賞を日本人を代表して、私が拝授出来、大変光栄に思うと共に、勿体無く思っております。

このように私の人生は、内外を問わず良き指導者と良き友に恵まれ、本当に幸せです。未熟な私が、無事教師の道を邁進できたのは、同窓の皆様のおかげと、助言の賜物と心から感謝しております。

これからも、人の心を大切に、更に広い視野と見識を広め、心豊かな人間に成長するように努力したいと思っています。

最後に母校の発展を心からお祈りして、これで失礼いたします。拙い文をお許し下さい。



岐阜県立

益田南高等学校勤務

## 中島 明美

(昭和43年度  
体育学部体育学科卒)



大学を卒業して、はや18年目が終わろうとしています。私は現在、故郷下呂で高校に勤務しておりますが、問題の山を抱え嘆息する日々ばかりで、改めてこの仕事を続けていくことへの懐疑にとりつかれております。もちろん、この仕事への情熱や生きがい失せてしまったわけではありませんが、ここ1、2年急速に悪化した状況は、あまりに重大で難解な様相をみせており、出口を求めて右往左往しているありさまです。

しかし、18年間決してこのようなことばかりだったわけではありません。この仕事を選んで良かった。この仕事を通じて教えられたと思うこともたびたびで、それが自分の自信へもつながったり、活動の原動力になってきたことも確かなのです。現状を季節に例えればまさに冬ですが、かつての教え子たちに会って話をする機会があると、「あの時の方がもっと苦しかったのかもしれない。何とかきりぬけなければ、教え子たちにも申しわけない」と思い直してみたりもします。

18年間を積みあげてきた自分自身への為にも、もうしばらくはこの苦境をきりぬける努力をしてみようかと考えています。「継続は行なり、力なり」を忘れずに。

日夜、御努力されておられる皆様に、このような御報告をすることは誠に心苦しいのですが、現状を偽るわけにもいかず、御教示いただければ幸いと思いあえて愚痴を書きならべてしまいました。お許し下さい。

最後になりましたが、母校の益々の御発展と、同窓会の皆さまの御活躍を心よりお祈りしております。

岐阜県立

アイ・シー・エム経営

## 四谷 孝子

(旧姓・古田)

(昭和49年度 家政学部  
食品・栄養学科卒)



卒業と同時に、ある病院に勤務する中で、栄養士としての果たす重要性が、自分なりにわかりかけた頃、退職し結婚、出産と10年が過ぎてしまいました。しかしその間、何かできないものかと考えついたのが、子供同志のつき合いからだだったのです。初めは何の気もなく7・8人の子供を集め、おやつを食べたり、昼食会を開くなかで、お母さんの間から手作りのおやつを作ろうという声があり、手作りクッキー、ニンジンパン、カボチャスープなど自然の材料で味にも共感するのです。又、もう一つ欲張ってみようと、地域の中の子供の健康作りを考えていけないものかと、10人余りのお母さん方の知恵を出し合い保健所の保健婦さんの協力で毎月1回の、地域健康相談が開けられる様になったのです。

テーマは「子供の食生活」「子供の病気」「生活のリズム」など色々なテーマを自分達で考え、少しでも良い方向に近づけたいと話合われ10年がまたたく間に過ぎ、一生のうち、2度と返らない実にすばらしい経験をし、地域のみなさんのはげましが心強く残っています。私は障害4級というハンディーをもちています。つい最近まで、私は自由に手が動いたら、自由に話ができればもっと人生は変わっていたのではないかと思っていたのですが、それは大まちがいがだったことを、子供達が教えてくれました。子供達も、女の子10才、7才に末の男の子も5才に大きく成長し毎日私を助けてくれます。

現在、コンピューター会社を主人と共に経営しておりますが、少しでも栄養士としての任務が続けられる様にと、病院における給食管理(献立、材料使用量、食数などを送って



もらい、日計表、栄養出納、栄養月報、病態別栄養集計等を行う。)や大学における研究(栄養調査、学生作成献立の栄養計算、統計、集計などの処理)の手伝いとなるような仕事もやっており、毎日、忙しく過ごしております。

母校の今後のご発展を心からお祈りいたします。

知多郡美浜町

立野間小学校勤務

二村 泰子

(旧姓・樋口)

(昭和40年度

短期大学部家政学科卒)



昭和41年4月、知多半島の最南端に位置する大井小学校の教員として採用され、胸ふくらませて初めての教壇に立ちました。

中2普の免許状しか持たない私は、通信教育で小学校の免許状を取得いたしました。それで、その後中学校へ変わることもなく、ずっと小学校教育にたずさわってまいりました。しかし、何の特徴もない人間ですのでこれといった活躍もしないまま、いたずらに20年間が過ぎ去り、ここにご報告することが何もないのが残念でございます。ただ一つだけ、底辺の子を少しでも引き上げるよう心がけてきました。低学年の場合、本当にできないのではなく、糸口がつかめないでいる場合が多いのです。漢字のテストで20点、30点の子が、6回目でやっと百点を取ったとき、子供と共に手を取って喜びあいました。常にくしゅんとしている子が、その日は光輝いていて、意気揚々と帰って行きました。私は長年、そんな小さな成果と小さな喜びを求めて、また、そんな小っぼけなことに生き斐いを託して日夜努力をして居ります。

現在の学校で4校目ですが、どこへ行っても低学年ばかりで、いつの間にか低学年専門教員のようになっていました。このごろ

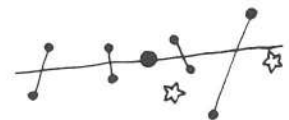
では、一年生を担当にすることも楽しみになり自分から買って出ることもあります。でも、退職するまでにはぜひ、全学年の担任を経験しようと思っております。

4年程前、初めて特殊学級を担当しました。三重度の障害を持つ子のいる知多でもめずらしい虚弱児学級でした。大小便の自立困難な子の世話から、食事の世話と、まるで家政婦になったような毎日でした。字を教えようとしても学習意欲は全くありません。時間ばかりが無駄に過ぎて行くようで本当に空しい日々でした。しかし、今では、人のできないすばらしい経験と勉強ができたことをほこりにさえ思えるようになりました。わずか2年間の経験でものを言うのはおこがましいですが、教育現場にいて、少し離れた所から現場の実態を見つめることができ、教育以前の原点に返ってもものを見直すことができました。そのことは、人間としての私の幅も大きく成長させてくれたし、20年間の教員生活の中で最大の収穫であったとも考えます。今はまた、45名の普通児と共に何不自由ない日々を送っておりますのでその頃のことをふと忘れがちです。時々思い出しては、自分自身の心に鞭を打っております。

すでに人生の折り返し地点を過ぎましたが、私に残された教員生活を悔いのないものにする為、子供達の心を大切に、また、一日一日を精一杯生き抜いて行こうと思っております。

昨年の暮れ20年ぶりに大府の母校を訪れたとき、新装成った数々の校舎や現在建築中の大体育館等を見て、母校の発展ぶりをこの目で確認でき、大変喜しく思いました。

最後になりましたが、卒業生の今後の御活躍と、母校の増々のご発展を祈念申し上げます。





# 半身マヒを見事に克服！ 新しい人生を歩む

森本 収子

(旧姓・小林)

(昭和15年度  
家事体操専攻科卒)

44年秋、病院のベッドで開いた週刊誌の中に、財団法人・人形美術協会の通信教育申し込みはがきのとじ込みが目に入りました。

「左半身マヒになった私に何が残されているか — を探すため、人形づくりでも何でもやってみようと、この通信教育を受けてみることにしました。」

それが、今では同美術協会総合特級師範、同美術協会県緋取支部長です。

高校教諭時代の40年5月、学校のグラウンドで、陸上競技を指導中、女子生徒の手から、すっぽり抜けた円盤を顔に当てる事故にあい、頭がい骨骨折し三級障害者左半身マヒになった。(過去、砲丸投げの県代表選手として国体に連続5回出場した経歴の持ち主) 加えて、両眼の視力障害も、この事故でバレーボールや砲丸投げの選手として活躍してきた森本さんのスポーツ生活に終止符が打たれ、それまで無縁だった創作の世界に足を踏み入れることになりました。

ボディに衣装を張り合わせていく木目込み人形をはじめ、綿で形作って色紙や額にする押絵人形など初歩的なものから、すべて手作りの日本人形(衣装人形)など、後遺症に悩まされながらも送られてくる教材を、次々にこなしていった。

「けがをして15年後の55年5月に、徳島市内で初めて人形の個展を開きました。」とのこと。

56年、緋取人形美術教室を開き、57年、県

芸術祭で教室の一連の作品が新人賞、58年、優秀賞。59年には、森本さん自身の作品、「子供の情景」が優秀賞に輝いた。一方、県展でも、56年に木彫りの人形に染色和紙を張った紙塑(しそ)人形「姉弟」で初入選以来、連続入選を続けている。

県展では、このほか、県女流美術家協会副会長の長尾弘子さんの手ほどきで始めた日本画が、44年以来、連続入選。このところ、日本画と美術工芸部門(人形)で、ダブル入選を果たしている。

「人形と日本画のほか、書道も始めてから、



13年になっています。」とのこと。

いづれにも素晴らしい才能を発揮しておられます。特に人形は「これまで手がけてきたいろんな中から、自分自身の独特の雰囲気を持った紙塑人形を、中心に制作していきたい」という。

紙塑人形では59年の第19回人形美術展（東京）でも小学館賞を獲得している。この時の人形は、七五三祝いの男の子。キリの木で顔、胴、手、足を彫り、胡粉（ごふん）で磨き、これに自分で藍やヤマモモなどで草木染めした和紙を、何枚も張り合わせたものである。

「後遺症が今も残り、左手に十分力が入らないので木を彫るのが一番の苦勞。でも、徳島や高知に豊富な和紙を利用した私なりの人形を、一年に一体づつでも、命ある限り作って、絵と共に残していきたい。」という。

右眼はもう見えなくなっておっしゃっていらっしやいましたが、森本さんの創作意欲の炎はおとろえることなく燃えつづけられ、ますますのご活躍を期待いたしています。

60年（1985年）7月14日  
徳島新聞より

同窓会役員の一部の方々に、大学での仕事についてふれてみましたのでご紹介致します。

## 溝口百合子

（昭和31年度  
短期大学部体育科卒）



卒業生のみなさん、おげんきでいらっしやいますか。私は、昭和31年卒業後、母校の体育科で陸上競技の授業を36年まで担当し、現在は、家政学部に所属、幼稚園、小学校教職過程の体育関係を担当いたしております。私のはかに若い卒業生が母校に残り、主務のか

たわら、同窓会進営のため努力されています。色々と不行届はあるかと存じますが、卒業生のみなさまがたにおかれましても、これら等々の内容をご理解いただき、ご遠慮なくご意見をいただきたいと願っております。

## 河合きく

（昭和30年度  
短期大学部家政学科卒）



同窓会の設立以来、会計を担当しています。57年から事務局の協力を得て、会費が自動振込に変わり、卒業生全員に入室して頂く為、収入面のゆとりができ、3名の若いスタッフと分担して仕事を進めています。私の担当教科は、被服構成学、被服構成実習Ⅱ（洋裁）、家政学演習、総合科目Ⅰです。最近是被服の技術指導ばかりでなく、時代に即応した一般教育、専門科目のゼミ活動が重視されるようになっており、学生達に負けぬように頑張っています。

## 服部康子

（昭和45年度  
体育学部体育学科卒）



現在、同窓会では書記を担当しております。この同窓会ニュースも皆様のお手元に届きますよう努力しております。この同窓会が現在より活動的に運営されるには、皆様のご理解とご協力が必要と思います。私は体育学科の学生に体育測定と発育発達論および演習を担当しております。卒業論文も学生と共に学びながら指導しております。大学が少しずつ確実に前進している動きを感じとりながら、日々の仕事に励んでおります。

## 藤原保美

(昭和55年度 家政学部食品  
栄養学科卒)



現在、中京女子大学教務課勤務、食品、栄養学科の教室職員として実験、実習の助手を、また同窓会では会計を担当しております。大学に勤めてはや5年、その間に図書館が建ち、この夏にはりっぱな体育館が完成予定、大学は大きく変化しております。同窓会も、昨年夏念願の名簿を発行することができ、ようやく軌道にのってきましたが、まだまだ力不足です。同窓生の皆様のご協力により、この会を大きく成長させたいものです。

## 飯本 たかね

(昭和53年度  
体育学部体育学科卒)



所属は教務課、体育学科の教室職員です。仕事内容は実験助手（運動生理学実験・体育心理学実験）。二科目の目的及び実験内容は異なっているが、各科目の実験で得たデータを処理する過程では、卒論などに直接結びついた研究方法や実験的な考え方を身につけることができる。私は、学生がわかる授業づくりを目指して、資料作成及び知識や実験の経験を豊富にする努力を続けたいと思っております。



## 二宮智子

(昭和59年度  
家政学部児童学科卒)



現在短期大学部家政学部の教室職員として勤務しております。教務の仕事、学生と先生とのパイプ役を勤めて1年が過ぎました。同窓会では短家の卒業生名簿の整理をしております。

## 中野千鶴子

(昭和46年度  
短期大学部家政学科卒)



私は、図書館の業務のうち、図書の整理部門を担当し、受入れられた和書の整理に当たっております。現在では整理された図書のデータをコンピューターに入力することにより、資料の検索が画面を通して即座に出来るようになりました。

整理された図書1冊1冊が、図書館の資料の充実に連がり、学生達の利用、活用とされ勉学に役立つことを願って日々の業務に励んでおります。同窓生の皆様も大いに利用して下さい。

## 編集後記

さくら前線が日本中を駆けめぐり季節がおとずれました。今回は新会員の声を多く掲載致しました。誰もが経験した日々かと思いますが、あの時の気持ちを思い出し、活力ある日々をお過ごし下さい。

最後に、第7号に原稿をお寄せ下さいました皆様に心からお礼申し上げます。